

V そ の 他

感染症情報解析評価委員会「今週のトピックス」

平成 27 年の感染症発生動向調査週報に掲載された、注目すべき感染症についてのコメントである「今週のトピックス」（感染症情報解析評価委員会が作成）を全て掲載した。

■平成 26 年第 53 週～平成 27 年第 1 週「インフルエンザ 警報レベル超える」

平成 26 年第 52 週と平成 27 年第 1 週をあわせて報告する。第 52 週は 2,967 例の報告があった。第 1 位は感染性胃腸炎以下、RS ウイルス感染症、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順であった。

第 1 週の報告数は 921 例と少なく、年末年始の影響と思われる。第 1 位は感染性胃腸炎以下、RS ウイルス感染症、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順である。第 1 週の感染性胃腸炎は前週比 72% 減の 436 例であった。

インフルエンザは第 52 週で前週比 91% 増の 10,321 例、定点あたり 33.6 となり、警報レベル開始基準値の 30 を超えた。インフルエンザウイルス AH3 亜型が分離されている。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 2 週「インフルエンザ 流行続く」

第 2 週は前週比 153.9% 増の 2,338 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 5.6、1.9、1.5、1.1、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 156% 増の 1,117 例で、中河内 8.5、泉州 8.2、南河内 7.5 と続く。RS ウイルス感染症は 90% 増の 383 例で、大阪市北部 3.1、中河内 2.8 である。A 群溶連菌咽頭炎は 206% 増の 306 例であった。

インフルエンザは 50% 増の 8,502 例、定点あたり 27.6 である。大阪市西部 39.6、南河内 37.9、堺市・大阪市北部 32.6 で警報レベルを超えている。今後の動向に注意が必要である。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 3 週「インフルエンザ 僅かに減少」

第 3 週は前週比 16.7% 減の 1,948 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、水痘、突発性発しんの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 5.4、1.6、1.1、0.4、0.4 である。

感染性胃腸炎は前週比 3% 減の 1,083 例で、中河内 9.1、南河内 8.7、泉州 6.4 であった。A 群溶連菌咽頭炎は 8% 増の 329 例で、大阪市東部 2.5、南河内・豊能 2.2 と高い。RS ウイルス感染症は 42% 減の 224 例で、南河内 2.1 である。

インフルエンザは 3% 減の 8,280 例、定点あたり 26.9 であった。大阪市西部 50.7、大阪市北部 35.6、南河内 35.0 と高い。

麻疹・風しんの報告はなかった。

■平成27年第4週「インフルエンザ 流行続く」

第4週は前週比19.7%増の2,331例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、突発性発しんの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.5、2.1、1.0、0.7、0.4であった。

感染性胃腸炎は前週比20%増の1,302例で、中河内10.0、南河内8.3、大阪市西部8.1と続く。A群溶連菌咽頭炎は28%増の421例で泉州3.6である。RSウイルス感染症は10%減の201例で大阪市北部1.9である。水痘は50%増の132例で南河内1.4であった。

インフルエンザは4%増の8,640例で定点あたり28.1である。南河内44.2、北河内34.9、大阪市西部33.1、大阪市北部31.6が警報レベルを超えている。

麻疹・風しんの報告はなかった。

■平成27年第5週「インフルエンザ ピーク越える」

第5週は前週比5.8%増の2,466例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、手足口病の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.3、2.4、1.2、0.5、0.5であった。

感染性胃腸炎は前週比3%減の1,268例で、南河内10.1、中河内・泉州9.9と続く。A群溶連菌咽頭炎は17%増の492例で南河内3.9である。RSウイルス感染症は22%増の246例で南河内2.9である。手足口病は77%増の99例と4週連続で増加している。

インフルエンザは29%減の6,174例、定点あたり20.0で、全ブロックで減少した。南河内28.2、北河内25.1と続く。

麻疹の報告はなく、風しんの報告は1例であった。

■平成27年第6週「インフルエンザ 減少続く」

第6週は前週比4.7%減の2,349例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症、手足口病、水痘の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.0、2.3、1.3、0.6、0.4であった。

感染性胃腸炎は前週比5%減の1,210例の報告で、南河内10.1、中河内9.1、泉州8.2と続く。A群溶連菌咽頭炎は5%減の467例で堺市3.6である。RSウイルス感染症は2%増の252例、南河内4.5であった。手足口病は12%増の111例、南河内1.6と目立つ。水痘は16%減の88例である。

インフルエンザは36%減の3,967例、定点あたり12.9となった。南河内21.6、泉州14.5、豊能14.3と続く。麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成27年第7週「インフルエンザ さらに減少」

第7週は前週比微増の2,357例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、手足口病の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.5、2.0、1.0、0.6、0.5であった。

感染性胃腸炎は前週比9%増の1,314例で、中河内10.6、泉州8.9である。A群溶連菌咽頭炎は15%減の395例で、南河内3.1、泉州2.7であった。RSウイルス感染症は20%減の202例で、南河内2.2、水痘は36%増の120例で、大阪市西部2.1である。

インフルエンザは41%減の2,342例で、定点あたり7.6である。11ブロック中10ブロックで流行発生警報継続基準値の10を下回った。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 8 週「インフルエンザ 減少続く」

第 8 週は前週比微増の 2,377 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、水痘、突発性発しんの順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 6.7、2.5、0.8、0.4、0.4 であった。

感染性胃腸炎は 2% 増の 1,338 例の報告で、中河内 10.4、泉州 9.1 と続く。A 群溶連菌咽頭炎は 24% 増の 489 例で南河内 5.0 と高い。RS ウイルス感染症は 20% 減の 161 例で南河内 1.9 である。水痘は 29% 減の 85 例であった。

インフルエンザは 36% 減の 1,502 例、定点あたり 4.9 である。全ブロックで 4 週連続で減少し、南河内 11.3 を除く 10 ブロックで警報継続基準値の 10 を下回っている。

麻疹・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 9 週「インフルエンザ 終息へ向かう」

第 9 週は前週比 20.3% 増の 2,859 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、水痘、手足口病の順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.6、2.7、0.7、0.6、0.6 であった。

感染性胃腸炎は 28% 増の 1,717 例の報告で、北河内 16.3、泉州 11.0、中河内 10.9 と続く。A 群溶連菌咽頭炎は 8% 増の 528 例で泉州 3.5 と高い。RS ウイルス感染症は 8% 減の 148 例で大阪市北部 1.6 である。水痘は 36% 増の 116 例であった。

インフルエンザは 25% 減の 1,122 例、定点あたり 3.7 となり、全ブロックで警報継続基準値 10 を下回り、終息に向かっている。

麻疹・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 10 週「手足口病 増加」

第 10 週は前週比 2.5% 増の 2,931 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症、突発性発しんの順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 9.1、2.8、0.7、0.5、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 5% 増の 1,795 例の報告で北河内 16.3、泉州 13.9、南河内 13.7 と続く。A 群溶連菌咽頭炎は 4% 増の 548 例で大阪市南部 4.6、南河内 4.4、中河内 3.6 と高い。手足口病は 23% 増の 141 例で中河内 2.3、北河内 1.3 であった。RS ウイルス感染症は 30% 減の 104 例である。

インフルエンザは 21% 減の 891 例、定点あたり 2.9 となった。

麻疹の報告はなく、風しんは 1 例の報告があった。

■平成 27 年第 11 週「手足口病 さらに増加」

第 11 週は前週比微減の 2,919 例の報告があった。第 1 位は感染性胃腸炎以下、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病、水痘、RS ウイルス感染症の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.7、2.7、0.9、0.6、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 4% 減の 1,726 例で、北河内 14.6、南河内 13.6 である。A 群溶連菌咽頭炎は 4% 減の 527 例で大阪市北部 3.4、堺市 3.3 と続く。手足口病は 30% 増の 184 例、中河内 2.7 が目立つ。主としてコクサッキーウイルス A 16 が検出されている。水痘は 32% 増の 124 例である。RS ウイルス感染症は微減の 103 例であった。

インフルエンザは 7% 減の 828 例、定点あたり 2.7 である。南河内 4.5、北河内 3.4 であった。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成27年第12週「手足口病 増加続く」

第12週は前週比7.3%減の2,705例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、水痘、RSウイルス感染症の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.6、2.6、1.0、0.6、0.5である。

感染性胃腸炎は前週比13%減の1,506例で、北河内・泉州11.6、南河内10.9である。A群溶連菌咽頭炎は微減の523例で、南河内・中河内3.6、堺市3.4、大阪市南部3.1と高い。手足口病は5%増の194例で、中河内2.2が目立つ。水痘は11%減の110例、RSウイルス感染症は同数の103例である。

インフルエンザは微増の845例で、定点あたり2.8であった。北河内4.1、南河内3.8、大阪市西部3.0である。麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第13週「手足口病 さらに増加」

第13週は前週比7.6%減の2,500例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、水痘、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.3、2.6、1.2、0.7、0.6である。

感染性胃腸炎は前週比17%減の1,250例で、泉州11.0、南河内9.3、北河内8.0である。A群溶連菌咽頭炎は微減の518例で、泉州4.1、中河内3.7、堺市3.6と高い。手足口病は21%増の235例で、泉州2.0、北河内1.9、中河内1.5である。水痘は19%増の131例である。

インフルエンザは28%減の611例で定点あたり2.0であった。南河内4.1である。麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第14週「伝染性紅斑 増加」

第14週は前週比10.0%減の2,250例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、水痘、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.2、1.8、1.0、0.5、0.5である。

感染性胃腸炎は前週比3%減の1,215例で、南河内10.6、泉州9.2、北河内8.1である。A群溶連菌咽頭炎は31%減の359例で、中河内3.3、南河内2.4、手足口病は20%減の188例で、中河内1.8であった。第7位の伝染性紅斑は15%増の70例で、定点あたり0.36となり、4年ぶりに0.3を超えている。中河内0.85が目立つ。

インフルエンザは12%減の540例で、定点あたり1.8であった。麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第15週「手足口病 再び増加」

第15週は前週比6.4%増の2,393例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、水痘の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.2、2.1、1.4、0.6、0.6であった。

感染性胃腸炎は前週比2%増の1,245例で、南河内9.8、中河内9.0である。A群溶連菌咽頭炎は16%増の416例で、堺市・中河内2.9であった。手足口病は46%増の275例で、泉州2.5を筆頭に北河内2.3、中河内2.0と続く。水痘は8%増の114例であった。第6位の伝染性紅斑は10%増の77例で、定点あたり0.4となった。3週連続で増加している。

インフルエンザは31%減の370例で、定点あたり1.2となった。麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 16 週「手足口病 増加続く」

第 16 週は前週比 24.7% 増の 2,985 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、水痘の順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.2、2.6、2.4、0.6、0.6 であった。

感染性胃腸炎は前週比 16% 増の 1,446 例で、北河内 12.0、中河内 9.9 である。A 群溶連菌咽頭炎は 25% 増の 520 例で、中河内 4.0、南河内 3.4 であった。手足口病は 73% 増の 477 例で、北河内 4.9 を筆頭に泉州 4.2、中河内 3.0 と続く。伝染性紅斑は 47% 増の 113 例で、中河内 1.1 である。4 週連続で増加している。水痘は 3% 減の 111 例であった。

インフルエンザは 19% 増の 440 例で、定点あたり 1.4 である。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 17 週「手足口病 さらに増加」

第 17 週は前週比 11.6% 増の 3,330 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しんの順である。

上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.5、3.2、2.8、0.7、0.6 であった。

感染性胃腸炎は前週比 4% 増の 1,507 例で、北河内 13.4、南河内 11.1 である。A 群溶連菌咽頭炎は 24% 増の 642 例で、中河内 5.4、堺市 4.3、大阪市 4.0 であった。手足口病は 17% 増の 559 例で、北河内 5.6 を筆頭に中河内 4.4、泉州 4.0 と続く。一部のブロックでは流行発生警報基準値（5）を超えている。伝染性紅斑は 18% 増の 133 例で、中河内 1.8 である。5 週連続で増加し、5 年ぶりの流行が懸念され、今後の発生動向に注意が必要である。

インフルエンザは 5% 増の 460 例で、定点あたり 1.5 である。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 18・19 週「インフルエンザ 終息か」

第 18 週と第 19 週をあわせて報告する。第 18 週は前週比 6.7% 減の 3,107 例の報告があった。第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、咽頭結膜熱の順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 6.9、3.1、2.8、0.6、0.5 であった。

インフルエンザは 29% 減の 328 例で、定点あたり 1.1 である。

第 19 週は連休の影響か、前週比 34.2% 減の 2,043 例の報告であった。第 1 位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.7、1.8、1.6、0.6、0.6 であった。感染性胃腸炎は前週比 32% 減の 932 例で、大阪市西部 9.7 である。A 群溶連菌咽頭炎は 49% 減の 315 例であった。

インフルエンザは 55% 減の 148 例で、定点あたり 0.5 である。中河内 1.1 を除く 10 ブロックで 1 未満となった。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成27年第20週「インフルエンザ 終息」

連休明けの第20週は前週比46.1%増の2,984例の報告であった。第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、咽頭結膜熱の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.9、3.4、1.9、0.7、0.6であった。

感染性胃腸炎は前週比48%増の1,376例の報告があった。南河内10.9、中河内10.0、北河内9.9の順である。

A群溶連菌咽頭炎は113%増の670例で、中河内4.6、南河内4.1である。手足口病は8%増の388例で、泉州4.2、北河内3.0、大阪市北部2.6、南河内2.1で高い。咽頭結膜熱は102%増の115例となった。

インフルエンザは33%減の99例で、定点あたり0.3である。すべてのブロックで1を切り、終息したものである。

麻しんの報告はなかった。風しんの報告は2例であった。

■平成27年第21週「手足口病 増加」

第21週は前週比7.3%増の3,203例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、伝染性紅斑の順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.8、3.3、3.0、0.7、0.6であった。

感染性胃腸炎は前週より微減の1,362例の報告で、南河内10.7、中河内9.1、北河内8.9と続く。A群溶連菌咽頭炎は微減の662例で、大阪市南部6.2、中河内5.0、南河内4.4で多い。手足口病は53%増の592例で、泉州4.1、北河内4.0であった。コクサッキーウイルスA16型が主に検出されている。伝染性紅斑は28%増の120例で、中河内1.9である。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第22週「咽頭結膜熱 増加」

第22週は前週比11.6%増の3,573例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、咽頭結膜熱、伝染性紅斑の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.4、3.6、3.3、0.8、0.8である。

感染性胃腸炎は8%増の1,473例で、南河内11.2、北河内10.0、中河内9.5の順であった。A群溶連菌咽頭炎は9%増の721例で、大阪市南部5.4、南河内4.9、中河内4.5が目立つ。手足口病は11%増の658例で、北河内5.4、泉州4.5、南河内4.4と高い。咽頭結膜熱（プール熱）は82%増の169例で、大阪市北部1.2、大阪市西部1.1であった。伝染性紅斑は38%増の166例で、中河内1.6、堺市1.4、泉州1.0と続く。

麻しん・風しんの報告はなかった。

■平成27年第23週「手足口病に引き続き注意」

第23週は前週比8.3%減の3,276例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.9、3.3、2.9、0.7、0.7である。

感染性胃腸炎は6%減の1,389例で、南河内11.3、中河内9.6、北河内8.4の順であった。A群溶連菌咽頭炎は9%減の658例で、南河内5.0、大阪市南部4.2、泉州4.0が高い。手足口病は11%減の584例であった。北河内5.6と2週連続で警報レベルの5.0を超え、大阪市北部4.9、南河内4.3と続く。咽頭結膜熱は22%減の131例で、南河内1.3であった。伝染性紅斑は38%減の103例で、中河内1.8である。

麻しんの報告はなく、風しんは2例であった。

■平成 27 年第 24 週「手足口病 再び増加」

第 24 週は前週比 17.9% 増の 3,863 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、咽頭結膜熱の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.6、4.4、3.7、0.8、0.7 である。

感染性胃腸炎は 10% 増の 1,524 例で、北河内 12.1、南河内 11.3、中河内 9.7、泉州 8.6 の順であった。

手足口病は 50% 増の 874 例で、北河内 10.0、南河内 6.3、大阪市北部 5.5 と警報レベル開始基準値の 5.0 を超えており、豊能・堺市 3.7、泉州 3.5 と続く。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 13% 増の 746 例で、南河内 6.7、大阪市南部 4.6、泉州 4.3、中河内 4.2 と高い。伝染性紅斑は 64% 増の 169 例で、中河内が 1.9 と高い。

咽頭結膜熱は 5% 増の 137 例で、南河内 1.2 であった。

麻疹・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 25 週「夏型感染症 増加」

第 25 週は前週比 3.6% 増の 4,002 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.1、5.5、3.2、0.8、0.8 であった。

感染性胃腸炎は前週比 6% 減の 1,429 例で、南河内 12.9、北河内 9.6、中河内 9.3 である。手足口病は 26% 増の 1,097 例で、北河内 12.0、南河内 7.6、豊能 5.6 など 5 ブロックで警報開始基準値の 5.0 以上である。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 15% 減の 636 例であった。ヘルパンギーナは 57% 増の 165 例で、大阪市南部 1.8 に多い。咽頭結膜熱は 20% 増の 164 例で、大阪市南部 1.3 であった。

麻疹の報告はなく、風しんは 1 例であった。

■平成 27 年第 26 週「伝染性紅斑 増加」

第 26 週は前週比微減の 3,950 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 6.2、5.7、3.2、1.0、1.0 であった。

感染性胃腸炎は前週比 14% 減の 1,234 例で、南河内 9.1、中河内 8.9、北河内 8.4 である。手足口病は 4% 増の 1,137 例で、北河内 9.2、南河内 8.9、豊能 6.8 であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は微増の 637 例である。伝染性紅斑は 47% 増の 203 例で、中河内 2.6、泉州・豊能 1.5 の順に多く、昨年より多い状況が続いている。ヘルパンギーナは 16% 増の 192 例で、大阪市南部 1.9 に多い。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 27 週「手足口病 増加続く」

第 27 週は前週比 3.6% 増の 4,094 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.0、5.5、2.8、1.6、1.1 であった。

手足口病は前週比 23% 増の 1,398 例で、4 週連続で増加している。南河内 14.2、北河内 11.5、大阪市北部 8.4 であり、これらの地域を含む 6 ブロックで警報レベル開始基準値 5 を超えていた。感染性胃腸炎は 12% 減の 1,092 例で、中河内 8.7、南河内 8.2 である。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 13% 減の 555 例、南河内 5.6、北河内 3.2 であった。ヘルパンギーナは 64% 増の 314 例、大阪市南部 2.7、大阪市西部 2.5 である。伝染性紅斑は 7% 増の 218 例、泉州 2.2 で警報レベル開始基準値 2 を超えており、中河内 1.8、豊能 1.6 と続く。麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成27年第28週「手足口病 府内全域で警報レベル」

第28週は前週比5.8%増の4,331例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ9.1、4.9、2.5、1.7、1.2であった。

手足口病は前週比30%増の1,812例で、5週連続で増加した。南河内20.3、中河内12.4、大阪市北部10.7、北河内10.6と高く、全てのブロックで警報レベル開始基準値5.0を超えている。感染性胃腸炎は11%減の971例で、南河内8.3、泉州7.6、中河内6.9と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は10%減の497例で、南河内4.8、泉州3.6、中河内3.1であった。ヘルパンギーナは10%増の346例、大阪市南部・中河内2.6である。伝染性紅斑は6%増の231例で、泉州2.2、中河内2.1と警報レベル開始基準値2.0を超えていた。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第29週「夏型感染症 増加」

第29週は前週比14.0%増の4,938例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ12.7、4.2、2.5、2.3、1.0であった。

手足口病は前週比40%増の2,537例の報告があった。南河内25.1を筆頭に北河内16.7、中河内16.4、大阪市北部15.8と続く。全ブロックで先週よりさらに増加している。感染性胃腸炎は14%減の831例で、南河内8.6、中河内7.1、泉州6.2である。ヘルパンギーナは47%増の509例で、大阪市北部3.9、大阪市南部・西部3.4と高い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は8%減の457例で、南河内4.1、中河内3.4、大阪市南部3.1であった。伝染性紅斑は12%減の204例で、中河内1.8、泉州・豊能1.7となった。

麻しんは1例の報告があり、インドネシアからの帰国者で、遺伝子型はD8である。風しんの報告はなかった。

■平成27年第30週「夏型感染症 ピーク越えか」

第30週は前週比13.4%減の4,276例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ11.2、3.4、2.2、1.6、0.7である。

手足口病は前週比12%減の2,234例、南河内21.3、大阪市北部17.2、中河内15.0、北河内14.0と高い。感染性胃腸炎は19%減の670例、中河内6.3、大阪市西部4.8、南河内4.6、泉州4.4である。ヘルパンギーナは12%減の448例で、大阪市北部5.3、大阪市西部4.7、中河内3.2が目立つ。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は28%減の329例で、南河内3.0、中河内2.7、大阪市西部2.1であった。

麻しん・風しんの報告はなかった。

■平成27年第31週「手足口病 警報レベル続く」

第31週は前週比5.2%増の4,499例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ11.3、4.1、2.8、1.6、0.7である。

手足口病は前週より微増の2,252例、南河内19.9、中河内14.6、北河内14.0、大阪市北部12.1と高い。第28週以降、4週連続で全てのブロックにおいて警報レベル開始基準値5.0を超えている。感染性胃腸炎は22%増の816例、南河内8.3である。ヘルパンギーナは24%増の555例で、大阪市西部4.7、北河内4.1、大阪市北部3.8と高い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は5%減の313例で、南河内2.6、大阪市南部2.1、中河内2.0であった。

麻しん・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 32 週「手足口病 ピーク越える」

第 32 週は前週比 12.0%減の 3,960 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 9.8、3.3、2.5、1.4、0.7 である。

手足口病は前週比 13%減の 1,969 例で、南河内 16.6、泉州 15.1、北河内 11.2、中河内 10.5、大阪市北部 9.6 と続く。感染性胃腸炎は 18%減の 668 例で、中河内 6.7、南河内 5.7、北河内・泉州 4.5 である。ヘルパンギーナは 11%減の 493 例で、大阪市北部 5.1、泉州 3.2、堺市 2.7、北河内 2.5 であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 10%減の 281 例で、南河内 2.8、中河内 1.8、豊能 1.7 である。

麻しんの報告はなく、風しんの報告は成人 1 例であった。

■平成 27 年第 33 週「手足口病 減少」

第 33 週は前週比 36.6%減の 2,509 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 5.4、2.3、1.8、0.8、0.6 であった。

手足口病は前週比 46%減の 1,072 例で、全ブロックで減少した。大阪市北部 8.9、南河内 8.4、泉州・中河内 7.6 である。依然、6 ブロックで警報レベル開始基準値 5.0 を超えている。感染性胃腸炎は 32%減の 456 例で、大阪市西部 4.8、中河内 4.4、泉州 4.0 であった。ヘルパンギーナは 28%減の 354 例で、大阪市西部 5.1 を筆頭に大阪市北部 3.9、北河内 2.5 と続く。8 ブロックで減少した。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 41%減の 167 例、大阪市西部 1.7、中河内 1.4 である。伝染性紅斑は 9%減の 124 例、中河内 1.8、北河内 1.5 であった。

麻しんの報告はなく、風しんの報告は 1 例であった。

■平成 27 年第 34 週「手足口病 さらに減少」

第 34 週は前週比 2.2%増の 2,564 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順である。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.9、3.1、1.2、1.0、0.6 であった。

手足口病は前週比 9%減の 977 例で、泉州 8.8、南河内 7.6、中河内 6.1 であり、これらの地域を含む 4 ブロックで警報レベル開始基準値 5.0 を超えている。感染性胃腸炎は 37%増の 624 例で、中河内 6.1、泉州 4.7、北河内 4.2 であった。ヘルパンギーナは 30%減の 248 例で、大阪市北部 2.2、大阪市西部 2.1 である。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 19%増の 199 例で、大阪市東部・中河内 1.3 であった。咽頭結膜熱は 75%増の 119 例で、三島 1.1、北河内 1.0 である。

第 31 週からマイコプラズマ肺炎が増加している。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第35週「夏型感染症 減少」

第35週は前週比2.6%増の2,631例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ4.6、3.3、1.2、1.1、0.7であった。

手足口病は前週比7%減の912例で、南河内9.6、泉州8.2、中河内5.9と警報レベル開始基準値5.0以上は3ブロックに減少した。感染性胃腸炎は5%増の655例で、中河内5.9、南河内4.8、泉州4.3であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は17%増の232例で、南河内2.1、豊能1.7、北河内1.6であった。ヘルパンギーナは8%減の228例で、南河内1.9、泉州1.6である。

第31週から増加していたマイコプラズマ肺炎は横ばいで、第9位のRSウイルス感染症は2週連続前週比60%を超える増加があった。

インドネシアに渡航歴のある麻しん・風しんの重複感染報告が1例あった。

■平成27年第36週「RSウイルス感染症 増加の兆し」

第36週は前週より微減の2,589例の報告があった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.8、3.7、1.4、1.0、0.6であった。

手足口病は前週比16%減の769例で、泉州6.6、南河内6.4、中河内5.1であった。感染性胃腸炎は13%増の739例の報告で、中河内6.8、南河内・泉州5.4と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は18%増の273例で、南河内2.4である。ヘルパンギーナは13%減の199例で、大阪市北部1.9であった。

第7位のRSウイルス感染症は54%増の108例で、定点あたり報告数は0.5であった。大阪市東部1.5と目立つ。例年9月頃に患者数が増加しており、今後の動向に注意が必要である。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第37週「RSウイルス感染症 増加」

第37週は前週比6.5%減の2,422例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.8、3.1、1.3、0.8、0.8であった。

感染性胃腸炎は前週より微増の750例で、中河内6.4、南河内5.8、泉州5.4であった。手足口病は19%減の624例の報告で、泉州6.7、中河内4.1、南河内3.6と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3%減の266例で、大阪市東部2.4である。RSウイルス感染症は50%増の162例で、大阪市東部1.3、大阪市西部1.1、泉州1.0であった。引き続き注意が必要である。ヘルパンギーナは25%減の150例で、大阪市北部1.3であった。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第38・39週「感染症 端境期」

第38週と第39週とをあわせて報告する。第38週は前週比7.3%減の2,246例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.4、2.6、1.4、0.9、0.6であった。

第39週は連休の影響もあり、前週比32.1%減の1,525例の報告があった。上位5疾患のうち4位までは同じで、第5位は流行性耳下腺炎であった。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.3、1.6、0.8、0.7、0.4であった。

第39週の上位3位までは前週比30%以上減少したが、RSウイルス感染症は17%減の147例の報告であった。大阪市北部1.5、大阪市西部1.3、中河内1.1の順である。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 40 週「手足口病 終息へ」

第 40 週は前週比 37.4% 増の 2,095 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症で、流行性耳下腺炎・突発性発しんは同数の第 5 位であった。上位 6 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.9、1.5、1.4、0.9、0.5、0.5 である。

感染性胃腸炎は前週比 70% 増の 773 例の報告で、中河内 7.6 を筆頭に南河内 6.8、北河内 4.7、泉州 4.3 の順であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 79% 増の 301 例で、南河内 2.4、泉州 2.0 が目立つ。手足口病は 13% 減の 276 例で、南河内・泉州 2.0 であった。流行は終息に向かっていると考えられる。RS ウイルス感染症は 20% 増の 176 例で、南河内 1.9 であった。流行性耳下腺炎は 25% 増の 104 例で、中河内 1.7、大阪市西部・南河内 1.1 である。

麻しん・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 41 週「RS ウイルス感染症 増加」

第 41 週は前週比 8.3% 減の 1,922 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病、突発性発しんの順であった。上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.8、1.5、1.3、0.8、0.5 である。

感染性胃腸炎は前週比 2% 減の 759 例の報告で、南河内 7.8、中河内 6.2、泉州 4.8、大阪市西部 4.2、三島・北河内 3.9 の順であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 1% 減の 297 例で、北河内・大阪市南部 1.9、堺市 1.6、南河内・泉州・中河内 1.5 と続く。RS ウイルス感染症は 51% 増の 266 例で、大阪市北部 2.4、北河内・南河内・大阪市西部 2.1 が目立つ。今後の動向に注意が必要である。手足口病は 41% 減の 163 例、泉州 1.4、南河内 1.1 であった。

麻しん・風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 42 週「RS ウイルス感染症 増加続く」

第 42 週は前週比 3.7% 増の 1,994 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、手足口病の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.8、1.7、1.6、0.5、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 1% 減の 752 例で、南河内 8.5、中河内 5.7、泉州 5.4 である。RS ウイルス感染症は 28% 増の 340 例で、南河内 2.9 を筆頭に大阪市北部 2.4、大阪市西部・北河内 2.2 と続く。大阪市北部を除く 10 ブロックで増加した。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 6% 増の 314 例、北河内 2.4、大阪市西部 2.3、南河内・泉州 1.9 であった。伝染性紅斑は 40% 増の 101 例、南河内 1.3 である。手足口病は 39% 減の 100 例、南河内 1.1 であった。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第43週「感染性胃腸炎 増加」

第43週は前週比15.1%増の2,295例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎、第2位は同数のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とRSウイルス感染症で以下、流行性耳下腺炎、突発性発しんの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ4.7、1.9、1.9、0.6、0.5であった。

感染性胃腸炎は前週比24%増の936例の報告があり、南河内8.6、泉州7.8、中河内7.2である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22%増の383例で、南河内2.6、大阪市南部・北河内2.3と続く。RSウイルス感染症は、13%増の383例で、南河内3.4、大阪市西部3.3であった。流行性耳下腺炎は53%増の122例で、中河内・南河内1.6と多い。

マイコプラズマ肺炎は、第31週に約3年ぶりに1を超え、その後も報告数の多い状態が続いている。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第44週「感染性胃腸炎 さらに増加」

第44週は前週比1.2%増の2,322例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順である。上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.5、1.8、1.7、0.5、0.5であった。

感染性胃腸炎は前週比18%増の1,100例の報告で、中河内9.3を筆頭に、南河内8.3、泉州8.2と続く。RSウイルス感染症は8%減の351例、大阪市北部・大阪市西部・北河内2.5であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は10%減の346例、南河内2.6である。水痘は8%増の105例、大阪市北部1.3であった。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第45週「感染性胃腸炎 増加続く」

第45週は前週比13.0%増の2,623例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、伝染性紅斑の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ6.8、1.8、1.8、0.6、0.6であった。

感染性胃腸炎は前週比23%増の1,350例の報告で、泉州11.5を筆頭に南河内11.0、中河内10.7と高く、大阪市西部7.8、北河内7.5と続く。RSウイルス感染症は5%増の367例、大阪市北部2.9、大阪市西部2.8、中河内2.6であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3%増の358例、南河内3.4、大阪市西部・中河内2.3であった。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第46週「感染性胃腸炎 さらに増加続く」

第46週は前週比24.7%増の3,271例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ8.4、2.7、2.0、0.7、0.6であった。

感染性胃腸炎は前週比24%増の1,680例の報告で、南河内13.9を筆頭に泉州13.2、中河内10.5、大阪市北部10.3と続く。RSウイルス感染症は46%増の536例で、大阪市北部4.2、大阪市南部・大阪市西部3.9であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13%増の404例で、北河内3.1、南河内2.6、堺市・大阪市西部2.2である。水痘は49%増の139例で、大阪市北部1.4であった。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 47 週「RSウイルス感染症 増加」

第 47 週は前週比 3.9%増の 3,398 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.7、2.9、2.2、0.9、0.7 であった。

感染性胃腸炎は前週比 3%増の 1,732 例の報告で、泉州 14.9、南河内 14.8 と高く、北河内 9.9、中河内 9.7 と続く。RSウイルス感染症は 8%増の 580 例で、南河内 5.3、大阪市北部 4.7、大阪市南部 4.4 であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 9%増の 440 例で、大阪市南部 3.5、南河内 3.0 である。伝染性紅斑は 59%増の 186 例で、南河内 2.0 が目立つ。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 48 週「RSウイルス感染症 増加続く」

第 48 週は前週比 0.8%減の 3,371 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.1、3.6、2.0、0.8、0.6 である。

感染性胃腸炎は前週比 7%減の 1,614 例の報告で、泉州 12.8 を筆頭に中河内 11.3、南河内 11.1 の順である。

RSウイルス感染症は 25%増の 724 例で、南河内 7.3、中河内 5.4、大阪市西部 5.1 と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 9%減の 401 例で、豊能・中河内 2.8、大阪市南部 2.5 である。水痘は 12%増の 158 例で、南河内 2.1、大阪市北部 1.7、大阪市南部 1.1 であった。伝染性紅斑は 31%減の 128 例で、南河内 1.3 が目立つ。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 49 週「RSウイルス感染症 さらに増加」

第 49 週は前週比 18.6%増の 3,999 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 10.2、4.0、2.7、0.8、0.8 である。

感染性胃腸炎は前週比 26%増の 2,036 例の報告で、中河内 17.8 を筆頭に南河内 17.3、泉州 12.0 の順である。

RSウイルス感染症は 12%増の 809 例で、南河内 7.5、中河内 6.5、北河内 5.3 と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 33%増の 532 例で、大阪市西部 4.4、大阪市北部 3.3、豊能 3.2 である。伝染性紅斑は 23%増の 158 例で南河内 1.7、泉州 1.3 である。水痘は 3%減の 153 例で、中河内 1.5、南河内・大阪市北部 1.3 であった。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成 27 年第 50 週「RSウイルス感染症 やや減少」

第 50 週は前週比 1.1%減の 3,956 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 10.1、3.7、2.6、0.8、0.7 である。

感染性胃腸炎は前週比 1%減の 2,017 例の報告で、南河内 15.4 を筆頭に中河内 14.0、北河内 12.7 の順である。RSウイルス感染症は 9%減の 736 例で、南河内 6.6、中河内 5.4、大阪市北部 4.4、大阪市西部 4.1 と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 1%減の 526 例で、中河内 4.2、大阪市西部 4.0、大阪市南部 3.3 である。水痘は 6%増の 162 例で、中河内 1.4、大阪市南部・南河内・大阪市北部 1.3 であった。伝染性紅斑は 12%減の 139 例で、中河内 1.4、泉州 1.1、南河内 1.0 である。

麻疹、風しんの報告はなかった。

■平成27年第51週「RSウイルス感染症 再び増加」

第51週は前週比2.6%増の4,057例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ9.5、3.9、3.2、0.9、0.8である。

感染性胃腸炎は前週比6%減の1,904例の報告で、中河内14.2を筆頭に北河内13.3、南河内12.0の順である。RSウイルス感染症は7%増の786例で、南河内5.9、中河内5.3、大阪市北部4.9、大阪市西部・泉州が4.6と続く。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は23%増の649例で、南河内6.6、大阪市北部4.2、大阪市西部3.8である。水痘は7%増の174例で、大阪市南部・南河内1.4、中河内1.1であった。咽頭結膜熱は25%増の150例で中河内1.7、北河内1.1、大阪市東部0.9である。

麻しん、風しんの報告はなかった。

■平成27年第52・53週「インフルエンザ 増加の兆し」

第52週と第53週をあわせて報告する。第52週は前週比16.6%減の3,384例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、水痘の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ8.5、2.8、2.4、0.8、0.7であった。

第53週は57.9%減の1,425例と少なく、年末年始休日の影響と思われる。第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.3、1.3、1.0、0.5、0.3であった。

インフルエンザは第52週が51%増の186例、第53週が24%増の231例で定点あたり0.8となった。大阪市西部4.4、豊能・大阪市北部・大阪市東部1.0である。今後の動向に注意が必要である。

麻しん、風しんの報告はなかった。